

ものづくり産業は浜松から。

1887~

1887(明治20)年、山葉寅楠^{やまはとらくす}が壊れたオルガンを修理し、その時の経験を活かして国産初のオルガンを製作しました。このことは近代浜松のものづくり産業の始まりと言われています。そして世界を代表する企業であるスズキ、ホンダ、ヤマハ、カワイはここ浜松で創業しました。最近では、光電子・次世代輸送用機器など新しい分野でも目覚ましい活躍をしている企業もあります。浜松の地は、新しいことに果敢にチャレンジする「やらまいか精神」が息づき、その気質は新たな挑戦に向かっています。

2020~

2020(令和2)年4月、人口減少・超高齢化社会に対応した持続可能な都市づくりのため、「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」を設立しました。コンソーシアムでは、官民連携及び異業種連携によりモビリティサービスを推進することで、地域の移動手段の確立や移動とサービスの連携による地域の活性化を図っています。また天竜川水系(浜松市)が「デジタルライフライン全国総合整備計画」におけるドローン航路整備の先行地域に指定されたことを追い風として、コンソーシアム内に「ドローン利活用推進部会」を設置しました。

2025(令和7)年3月、世界初の「ドローン航路」が天竜川水系(浜松市)上空に開通し、コンソーシアム会員の連携により様々なサービスの社会実装が加速しています。

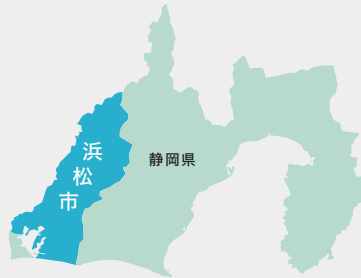


浜松市について



静岡県西部地域、人口約78万人の政令指定都市。

東京と大阪のほぼ中央に位置する浜松市は、その地理的条件と温暖な気候、さらに天竜川に代表される豊富な水資源などに恵まれ、古くから「ものづくり」が盛んなまちとして成長してきました。また、繊維、楽器、オートバイといった三大産業に見られるように、地域内で生まれた技術、技能を発展させ、世界的なリーディング・カンパニーを輩出しています。さらに近年では、光技術、電子技術関連などの先端技術産業も急速に発展し、国際的に高い評価を得ています。



各種支援制度

企業間の連携促進やフィールド調整・提供等によるサービス実装に向けた支援、新産業・創業、実証実験に対する各種支援制度を用意。

アクセス

- 東京まで約90分 (新幹線ひかり)
- 大阪まで約90分 (新幹線ひかり)
- 名古屋まで約30分 (新幹線ひかり)
- 富士山静岡空港まで約50分 (自動車)

各種
お問合せは

株式会社トラジェクトリー

浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム会員

- ドローン航路の利用方法など
E-Mail trjcc@trajectory.jp

- ドローン航路の運航計画 (下記ホームページに掲載)
WEB <https://www.trajectory.jp/news/category/traffic-info/>



浜松市

浜松市デジタル・スマートシティ推進課

〒430-8652 浜松市中央区元城町103-2

TEL 053-457-2454 E-Mail dsc@city.hamamatsu.shizuoka.jp

浜松市モビリティサービス
推進コンソーシアム

会 員 募 集



届けた人がある 待っている人がある



浜松市



天竜川水系[浜松市]上空

世界初、
ドローン航路
開通

HAMAMATSU CITY

未来の空が、もっと身近になる。

新たな空のインフラとして、世界初となる「ドローン航路」が

天竜川水系(浜松市)上空に整備されました。

より安全性・効率性の高い「ドローン航路」を活用し、

様々なサービスの社会実装を加速します。

ドローン航路とは

ドローン「空のみち」

ドローンが飛行するために設定された空間のことを指します。ドローンが安全かつ効率的に飛行するために共通ルールで運用されます。「空のみち」とも言えるものです。

ドローン航路を活用した
ドローン物流のイメージ

航路総延長
180
Km

物流・暮らしが変わる「ドローン航路」開通！

運行方法が大きく変わり、より利用しやすく。

01 安全かつ簡易に

これまで

飛行前:ドローン運航事業者ごとに個別の飛行経路リスク評価を実施したうえで航路の利用申請が必要。

飛行中:安全な運航のため常に各種データを個別にモニタリング。

これから

飛行前:リスクが低減された飛行空間としてドローン航路が整備されたことにより、ドローン航路を運航する場合の申請が簡略化。

飛行中:必要な各種データが集約され、状況認識が効率化。

02 調整が容易に

これまで

ドローン運航事業者ごとに地方自治体や飛行空間の地上・上空関係者との調整・周知が必要。

複数のドローン運航事業者の飛行経路が重複した場合、電話・固定メッセージでの個別調整が必要。

機体・運航方法・環境に応じて飛行条件が異なるため、混在した運用での高頻度運航が実現困難。

これから

ドローン航路運営者が関係者への飛行空間の調整・周知を一括で担うことにより、労務コストが削減。

ドローン航路運営者同士の飛行経路の共有により空域調整が効率化。

機体・運行方法・環境に応じた運用の仕組みをシステムへ実装することで複数のニーズに対応し、飛行空間の共用を実現。

03 リソースシェアが可能に

これまで

ドローン運航事業者ごとに、離着陸場・緊急離着陸場の確保などを実施し、重複投資が発生。

これから

ドローン航路を通じた共用リソースの登録・予約・利活用により、ドローン運航事業者の飛行コストが低下するとともに、未運航のドローンの稼働率も向上。

天竜川水系[浜松市]上空

「ドローン航路」を活用したサービスの創出

処方薬がすぐ手元に。



診療医・地元薬局との連携で可能に。

診療医と地元薬局との連携によるオンライン服薬指導とドローン配送により、これまで2〜3日かかっていた処方薬が当日中(約30分)に手にすることを実現。

マルチパーパスに活用。



輸送以外の活用にも期待。

買物難民の解消や災害時の物資輸送のほか、河川の巡視・点検など幅広い活用を目指す。

官民連携で
協調領域へ。

浜松市
モビリティサービス
推進コンソーシアム
2020年
4月設立



ドローン利活用、6つの分野。

ドローン利活用の有力・重点分野として、①防災、②物流、③農林業、④インフラメンテナンス、⑤広報&PR、⑥建築&測量の6分野を設定、官民連携で協調・共創領域に取り組む。

A 運送・積み込み

ドローン離着陸場へ荷物を運送し、積み込みを実施。



B 離陸

ドローン離着陸場。周囲の安全を確認し、離陸。公共施設・敷地を活用。



C 飛行

ドローン航路システムを活用し、モニタリングを実施。



D 着陸・受け取り

ドローン離着陸場。周囲の安全を確認し着陸。荷物を受け取る。



NEWS 2025年3月、ドローン航路開通！

3月25日、浜松市内に空のみち「ドローン航路」が世界に先駆け、開通しました。経済産業省をはじめ、関係者によるテープカットや調印式が行われました。航路を活用した様々なサービスの実装がコンソーシアム会員の連携により加速化しています。

(ドローン航路は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)が実施する「産業DXのためのデジタルインフラ整備事業」の成果です)

